

2005年7月 日

地方公務員災害補償基金審査会 御中

再審査請求人大友博子

代理人 遠藤利美

口頭意見陳述補充書

2005年6月13日の基金審査会における口頭意見陳述を下記のとおり補充する。

はじめに

私は、1982年に東京都の中学校教員に採用されました。その後、2000年に宮城県の中学校教員に採用され、学年主任および進路指導主事として進路指導に長年関わってきました。また、仙台市教職員組合の書記次長、書記長として専従を5年間経験しております。

このような経歴から、自分の体験だけではなく、仙台市内はもとより宮城県内各地の中学校における進路指導の実態や進路事務に関わる課題について十分把握できる立場にありました。

今回、被災職員の進路指導に関わる勤務時間の分析を行いましたので、その根拠等について意見の補充を行いたいと思います。

これは、仙台市立中山中学校の平成9年度「進学説明会」資料中の進路関係日程（p24～26）をもとに分析しました。

進路指導事務の実際

11 / 4 (火)

午後、保護者・生徒向けの進学説明会。1時30分から2時間。その後、学年会。

ここでは、生徒から11 / 5, 6に回収する「受験希望調査書」を基に、どのような資料(全生徒の受験校一覧表)を作成するかや、各担任が11 / 7の学年査定会に向けてどのような準備をして臨むかの確認が行われる。休憩も取れないまま2時間はかかる。

11 / 5 (水), 6 (木)

査定資料(合格基準)作成。県内すべての私立・公立高校について、合否の分かれ目となるであろう内申点や学力検査の点数を、ここ数年の受験データから割り出し作成する仕事を行う。早くても5, 6時間はかかる。

11 / 7 (金)

学年査定会。5時限後なので3時頃開始。全生徒の受験校一覧表と査定資料(合格基準)を基に、137名の生徒一人ひとりについて私立高校の受験校の確認と合格確率の査定を行う。この作業は、夕食なしで9時頃までかかる。

11 / 11 (火)

進路指導委員会。学年査定会の案を基に、校長以下全校の主任クラスが全生徒を対象に再検討を行う。午後2時頃から始まり、休憩なしで6時頃までかかる。

11 / 12 (水) ~ 21 (金)

三者面談。担任はその資料準備を11 / 8 (土), 9 (日)に行うこと

になる。進学希望校への合格可能性や適正についての相談が主な内容のため、勤務時間内にはとても終わらない。担任はその日の面談を終えてから相談結果をまとめ、翌日の面談の準備をする。その後、さらに授業の準備等を行うことになる。

11 / 23 (日)、24 (月) 振替休日

期末考査 (11 / 25) の問題作成。作成には模範解答づくりを含め少なくとも5時間は要する。

11 / 25 (火) ~ 27 (木)

期末考査終了と同時に、採点作業が始まる。家に持ち帰っての遅くまでの仕事になる。1クラス当たり3時間ほどかかり、合計10時間をこえる。持ち帰りの仕事になる理由は次のとおり。

素点入力終了日 (11 / 29) までに採点を終え、子どもたちに返して採点間違いがないか確認しなくてはならない

11 / 28 には職員会議があり勤務時間内に採点ができない

11 / 29 (土)

素点入力の仕事は土曜日の午後、つまり時間外になる。全教科分が入力されると、担任は生徒の成績表への記入を行う。これも家への持ち帰りの仕事になる。何故なら、成績表配布が12 / 2であり、12 / 1 (月) は学年打合せのため勤務時間内に作業ができないからである。

12 / 1 (月)

学年打ち合わせ。公立の受験校の妥当性を検討する手順と推薦入試に推薦する生徒を校内でどう選考するかを確認する会議。4時頃から7時頃までかかる。

12 / 5 (金)

学年査定会。12 / 3, 4 で回収した公立高校受験校確認書を基に、

全生徒について検討する。3時から始まり7時頃までかかる。

12 / 6 (土), 7 (日)

通信表作成の仕事。持ち帰りの仕事になる理由は、

12 / 8 までに評定 (通信票の成績) を出さなければならない。

評定を出すのためには、夏休み以降のすべての教育活動の成績を総括する必要があるため、膨大な時間を要する

12 / 8 (月)

評定交換。評定を各教科担任が入力する。勤務時間内に可。

12 / 9 (火)

進路指導委員会。校長をはじめ主任クラスの教員が、公立高校受験校一覧表を基に全生徒について検討する。午後2時から6時頃まで休憩なしで行われる。

12 / 11 (木) ~ 18 (木)

三者面談。この面談では、進路指導委員会での検討を受けて、本人の成績や適正に照らして公立の受験校が妥当であるかどうかを相談する。毎回勤務時間は超過してしまう。加えて担任は、面談期間中にもかかわらず、通信表作成のため、提出日 (11 / 17) まで毎晩の持ち帰り残業を強いられることになる。

12 / 22 (月)

推薦者選考会。面談期間中、保護者から申し出があった生徒について、各高校に誰を推薦するかを選考する会議。本来は高校の仕事であるが、各高校が推薦枠を決めているため、その高校に推薦を希望する生徒が推薦枠を超える場合、中学校内で選抜することになる。

この作業は、ほとんどの高校について行うことになり、また選抜基準が多岐にわたり客観的な判断が大変難しいため、午後1時から9時過ぎ

までの話し合いになる。

公立高校への推薦者が正式決定されると、その翌日、推薦に通った家庭には生徒を通して「校内推薦された」旨の通知が渡されるが、だめだった家庭には担任が直接訪問して「残念ながら推薦はできない」旨を言い渡すことになる。この作業が精神的に大変きつい。家庭からは「どうしてうちの子どもが推薦されないのか」と詰問されることも多く、担任は大きなストレスを抱えることになる。

12 / 24 (水) 25 (木)

教科相談。学力面で不安を持つ生徒を対象に、学力補充や学習法のアドバイスを行う。

12 / 24 (水) ~ 1 / 12 (月)

冬休みにはいるが、担任はここからが受験事務本番である。

私立高校の調査書作成には1枚当たり4, 5時間、公立高校の推薦書には1枚当たり数時間かかるため、3年生担任は22日からの冬休みの年末年始を、部活動とこの作業に費やすことになる。

入試事務のなかでも出願事務は、高校との関係でミスがあって生徒の不利になってはいけないので、大変神経を消耗する仕事である。そのため、学年全員が集まっての点検を何度も行う。冬休み中に、すべての調査書・推薦書を持ち寄って記入漏れや不備がないかどうかの確認を行う。その上で私立高校の出願準備として、出願に必要な書類の点検や出願手続きの確認を行う。

また実力考査の問題作成も、休み中に行われる。

1 / 13 (火)、14 (水)

実力考査。採点は、1 / 15 (木) 成人の日に行うことになる。

1 / 19 (月)

公立推薦入試、公立高校受験予備調査報告書を全公立高校に発送。勤務時間内に可。

1月下旬～2月初め

公立高校推薦入試(1/30)私立高校入試(1/29, 2/2, 4)。これに向けて、日常の業務の他に、連日生徒の面接練習を遅くまで行うことになる。

2/9(月)、10(火)

公立推薦合入試や私立入試の結果を受けて、公立高校の受験校を最終的に決定するための三者面談を行う。

2/23(月)～25(水)

3学期末考査。その後、公立入試(3/9)に向けて、3年生担当は受験をする生徒に対する指導と併せて卒業式(3/11)に向けた準備も行わなければならない。また、同時に3年間のまとめの指導もすすめなければならない。

3/13日(金)には公立高校の合格発表が行われるが、その後もこの高校にも決まっていない生徒の進路相談を行い、全員の進路が決定するまで取り組みが続くことになる。その後、指導要録等の高校への提出書類(3/23まで)を作成し、3月を終える。

この他に、学級経営、生徒会、部活動指導、教科・免外の授業準備等の仕事を併行して行っていたのです。